令和７年　総務産業常任委員会行政視察調査報告書

令和７年７月１５日

別海町議会議長　西　原　　浩　様

総務産業常任委員長　今　西　和　雄

総務産業常任委員会の行政視察調査を実施したので、別海町議会会議規則第７７条の規定により、次のとおり報告いたします。

記

１　日時

令和７年７月　９日（水）　午前　９時００分から

令和７年７月１０日（木）　午前１２時００分まで

２　開催場所

月形町　月形町役場及び月形温泉ゆりかご

石狩市　石狩市役所

３　出席委員

今西和雄委員長、宮越正人副委員長、佐藤初雄委員、戸田憲悦委員、松原政勝委員、小椋哲也委員、髙橋眞結美委員、市川聖母委員

４　欠席委員

なし

５　調査事項

７月９日から１０日にかけて、道議長会主催の町村議員研修会に併せて実施した委員会視察について報告する。

視察は月形町と石狩市で行い、それぞれ「『月形温泉ゆりかご』の運営状況について」「北海道フロンティアリーグ『石狩レッドフェニックス』を通じた地域活性化について」をテーマとした。

（１）月形町の視察報告

別海町ではふるさと交流館の再整備を控えており、同様の入浴施設である「月形温泉ゆりかご」を再整備したばかりの月形町を視察し状況を伺った。

主な説明は月形町の竹内参事から行われた。竹内参事は現在は株式会社月形町振興公社専務として勤務している。

①施設概要および沿革

・月形温泉ゆりかご：昭和６２年に入浴施設として開業

・平成４年：宿泊・研修施設「はな工房」増設

・平成１０年：入浴施設を拡張

・令和６年：初の大規模改修を実施、道の駅として登録

②経営状況

・平成３０年度は外部委託による人件費増・飲食業務停止の影響で赤字

・コロナ禍により飲食サービスを一時休止

・令和６年度は営業再開、指定管理料８，５００万円により収支黒字（純利益約３２０万円）

・令和７年度は指定管理料５，８００万円で純利益約１００万円を見込む

③大規模改修の内容と事業費

・総事業費：約１１億４，０００万円（大半を過疎債で対応）

・主な内訳：設計・管理費：約５，６００万円
建築・電気・設備工事：約１０億４００万円
外構工事（駐車場等）：約８，１００万円
備品整備（券売機、家具等）

④運営状況と利用率

・宿泊施設の稼働率：
４月：６５％、５月：７０～９１％、平均：７３％
ビジネス利用中心。町民価格設定あり（券売機に町民カードをかざすと６００円で入浴可）
外来利用増加に伴い売店売上も上昇（令和６年：２，４００万円）

⑤施設運営の方向性と今後の課題

・外来客向けの飲食スペースを新設、レストラン営業を強化
・地元食材を活用したメニュー開発を進行中
・指定管理による柔軟な運営のメリット
・小修繕は公社、１０万円以上は町負担
・冷暖房設備は電化、一部ボイラーは重油更新
・宿泊室の改修（水回り含む）は費用の都合上、今回見送り。今後の課題と認識

⑥質疑応答

【Ｑ１】なぜ宿泊室の改修を行わなかったのか。
回答：当初の計画では客室の水回りの整備も検討していたが、全体事業費の高騰により優先順位を見直した。老朽化した冷暖房設備を優先的に更新。宿泊室の大規模改修は今後の検討課題。

【Ｑ２】改修にあたって町民にアンケートなどは実施したのか。
回答：正式なアンケートは実施していないが、地域団体や町内説明会等で意見を収集し、基本構想に反映。道の駅整備に関しては、町主導で２年間の審議会を実施した。

【Ｑ３】温泉エリア周辺に集客施設が集中しているが計画的に進めているか。
回答：昭和５０年代から町が旧河川敷を活用して整備を進めてきた。すべて町主導での整備。近年は福祉法人や農業法人とも連携を強化し、情報交換会を実施。

【Ｑ４】売店売上が改修後に大きく増加しているが要因は。
回答：以前は入浴者・宿泊者のみ対応だったが、改修後は外来客対応を本格化。道の駅登録の効果も大きい。施設計画段階から外来対応を意識した設計と運営体制を整備。

【Ｑ５】法人の収益が上がると指定管理料は減る契約となっているか。
回答：売上に応じて町の負担は調整される。建物や設備の大規模改修は町が予算措置。公社側は資産を持たない第三セクターのため、大型設備投資は基本的に町の事業で実施。

【Ｑ６】人手不足の状況について。
回答：従業員の約８割は近隣の都市から通勤している。町内在住の人材確保を希望しているが、専門職を含め確保が困難な状況。

【Ｑ７】道の駅での農産物販売の状況は。
回答：直売所は町が管理する施設を地元福祉法人に貸与。火曜日定休で、５月下旬から１０月まで営業。町直営ではなく委託による運営。

【Ｑ８】町民や施設利用者の声の反映について。
回答：オープン当初は期待と以前の設備とのギャップから厳しい意見も多かったが、現在は改善を進めている。宿泊予約サイトの口コミやフロントでの意見も参考にしてサービス向上に努めている。

⑦現地の見学

「月形温泉ゆりかご」を中心とした各種周辺施設を見学した。

⑧まとめ

帰町後、委員会協議会にて振り返りを実施し下記の意見が出された。

・月形町と別海町では、人口、面積、市街地分布に加え、大都市圏からのアクセスなど状況がことなるため、施設そのものを直接的に参考にする手法は適切ではないという前提が必要。
・再整備の計画立案から実施、その後の公社による運営まで竹内参事が関わり、一貫した方針を取れている点が重要。人材によるか実効性の高い計画によるかなど手法は様々あるが、計画から運営まで一貫性のある体制が必要不可欠と考える。特に施設の運営者が我が事として情熱を持って取り組める仕組みが大切。
・再整備に際し、予算上の都合もあったとは思うが、一度に全ての改修を行わず、まずは道の駅として外来客数を増やし、その後、経営状況を見ながら宿泊施設の大規模改修を計画するなど、段階的な投資を行っている。リスクを抑えながら実施する再整備の手法として参考となる。
・施設運営に関わる人材の確保に苦労している点は「ふるさと交流館」でも同様の課題が予想される。月形町は通勤圏内に岩見沢市などの都市部もあるが、別海町ではより厳しい状況が見込めるため、計画段階から対策が必要。
・「月形温泉ゆりかご」は月形町で唯一の宿泊施設としての機能が求められ、減少が続く飲食店の起爆剤としての役割が求められている。別海町では周辺の宿泊・飲食産業の状況が異なるため、町内サービス産業との連携、棲み分けなどコンセプトを考える必要がある。

（２）石狩市の視察報告

別海町では、民間事業者が中心となり、今年北海道フロンティアリーグ所属のプロ野球チーム「別海パイロットスピリッツ」が誕生した。そこで、５年前に「石狩レッドフェニックス」が創設された石狩市を視察し、行政との関わりや地域振興への活用状況などを視察した。

①石狩レッドフェニックスの概要
・石狩市を拠点とするプロ野球独立リーグ球団。現在は北海道フロンティアリーグに所属。
・２０２０年（令和２年）創設。
・チーム名「フェニックス」は「赤＝情熱」「フェニックス＝再生・復活」に由来し、「何度でも立ち上がる」意志が込められている。

②活動拠点と戦績
・ホーム球場は青葉公園野球場。
・２０２１年：北海道ベースボールリーグ優勝
・２０２３年・２０２４年：北海道フロンティアリーグ優勝

③石狩市との包括連携協定
・締結日：２０２３年（令和５年）９月２１日
・目的：市と球団が相互に連携し、地域の資源を活かしてまちを元気にする
・主な連携項目：移住・定住促進、交流人口の拡大、地域振興、子どもの育成、スポーツ振興など
・協定締結の背景には、設立から３年間にわたる実績と信頼関係の構築がある。

④市による支援内容
・青葉公園野球場の優先利用提供（通常より早期の事業許可もあり）
・市広報「広報いしかり」にて球団活動を特集
・「スポーツによるまちづくり推進交付金」の創設（企業版ふるさと納税を活用）
令和４年度：８００万円（３法人）
令和５年度：１，４００万円（６法人）
令和６年度：１，８５０万円（５法人）
令和７年度：１，９５０万円（５法人予定）

⑤球団による地域貢献活動
・高齢者・障がい者世帯への除雪ボランティア
・認定こども園・小学校での「投げ方教室」の講師協力

・年１回のファン感謝祭（屋台出店・トークショー等）
・少年団や中学生への野球指導
・地域企業での就労・定住支援、退団後も市内に定住する事例あり

⑥スポーツによるまちづくり推進交付金の活用内容
・少年・中学野球の技術指導
・チーム体制強化（選手給与補助）
・市民観戦機会やイベント開催（観戦無料化、感謝祭など）
・市内企業との雇用マッチングによる労働人口の拡大
・移住・定住促進およびセカンドキャリア支援の実施

⑦球場施設の整備・管理課題
・フェンスの高さ不足に対応し、令和５年度に改修を実施
・緊急対応用設備（タンカ等）の設置要望
・照明やスコアボードの明度調整など視認性改善の必要性
・球場は公園施設のため、スポーツ健康課ではなく公園管理課が主たる管理を担う
・施設老朽化への対応も継続的に必要

⑧地域経済・産業との連携
・選手の多くが市内企業で就労し、地域定着に寄与
・応援企業がＳＮＳなどで選手紹介を行い、地元支援機運を醸成
・セカンドキャリア支援として、退団後も市内就業・定住する例もある

⑨課題と今後の方向性
・球団の認知度向上と応援ムードの醸成（例：日本ハムとの比較意識）
・フェニックスを地域全体で支援する「空気感」の確立を目指す
・市内関係部局（企画・移住定住・産業等）との横断的連携を強化
・窓口業務をスポーツ健康課に一元化し、調整を円滑化

⑩質疑応答（要点整理）
・観客動員数：１試合平均４００～５００名、最大１，２００名
・設立経緯：地元実業家である代表が地域貢献のために立ち上げを提案
・年間収入：寄付金約２，０００万円＋スポンサー・グッズ収入等で１，２００～１，３００万円
・財政状況：年間５００万円程度の経常赤字が発生
・地元出身選手の確保が難しく、強豪校への進学が影響
・高校生への指導はプロ・アマ規定により実施していない
・ホーム球場の少年団とのバッティングは少なく、少年団は市内で学校グラウンドを活用し柔軟に調整

⑪まとめ
・石狩市では健康増進を目的としたスポーツ健康課が設置されている。別海町はスポーツの教育に活かす取り組みは非常に力を入れ成果を上げているが、健康増進に繋げる政策にもっと力を入れる体制を取るのも有効であると考える。
・プロ組織である「別海パイロットスピリッツ」をフラッグシップとした地域のスポーツ活動の充実に向けて、息の長い継続な支援体制の構築が必要と感じた。特にホーム球場を含めた練習環境の確保充実、セカンドキャリアの支援など、地域振興やスポーツ教育にも活用可能な取り組みに力を入れることが望ましいと考える。